

山陽学園大学助産学専攻科 「2019年度 履修ガイド・授業概要(Syllabus)」より抜粋

山陽学園大学  
助産学専攻科

# 授業概要 (Syllabus)

科目名	助産学概論		担当教員	難波亜希子		
開講学期	前期	授業形態	講義	必修	単位	1
授業概要			授業内容			
助産学の基礎となる概念と、助産師が行うケアを支える理念を理解する。女性の生涯を通じた性と生殖について主要な理論を修得する。また、助産学を取り巻く社会の変化と助産学の変遷および母子保健の動向を知る。我が国の母子保健の実際と課題、世界の母子保健の実際と課題について知るとともに、助産実践の倫理的な判断について学ぶ。			1 助産の基本概念 2 助産学を構成する理論 3 助産師が行うケアの理論 4 助産師と倫理 5 女性の健康と人権 6 リプロダクティブ・ヘルスにかかわる助産実践 7 母子保健の歴史と動向 8 助産師教育と諸外国における助産			
GIO(一般目標)			* 各授業には助産の歴史の変遷に関する年表演習が含まれる			
1 助産学の基礎となる概念と理論を知る 2 助産師としての役割について知る 3 助産師としての倫理観を持てる 4 多様な文化での助産活動を理解する 5 助産師の活動の将来的展望を知る						
SBO(行動目標)						
1 助産師の概念の歴史の変遷を理解できる 2 母子保健についての国内外の動向について知ることができる 3 助産を取り巻く倫理的な課題を知ることができる 4 助産師としての職業倫理観を培うことができる 5 助産師活動の将来的展望を持つことができる						
準備学習の内容・留意事項						
1 授業前にシラバス提示内容の事前学習を行い受講する 2 授業回数の順番を変更することがある。変更内容は掲示板で知らせる						
成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポートを含む)へのフィードバックの方法						
1. 授業前の準備状況(10%) 2. 授業への参加状況(10%) 3. レポート課題(20%) 4. 筆記試験(60%) 試験については、特に正答率の低かった問題などについての講評を掲示などにより行う。また、レポートの不合格者については、問題点を指摘した上で、レポートの再提出を求める						
教科書(紹介する参考図書もあれば記載)						
1 助産学講座1 基礎助産学[1] 助産学概論 2019年度版 2 新版 助産師業務要覧 (I 基礎編)2019年度版 3 出生と死をめぐる生命倫理 医学書院						
【参考図書】						
1 実践マタニティ診断 第5版 医学書院 2 母子保健の主なる統計 母子保健事業団 3 看護六法 新日本法規出版株式会社 4 助産業務ガイドライン第3版 2014年						
受講における注意事項						
1 授業前プレゼンテーション担当者を別途提示する 2 レポート課題は、最終回の授業前に提出する						

科目名	周産期医学 I		担当教員	多田克彦 他		
開講学期	前期	授業形態	講義	必修	単位	1
授業概要			授業内容			
<p>正常な妊娠・分娩・産褥・新生児期の形態機能と生理を理解する。具体的には妊娠の成立と維持、母体の変化、正常分娩の経過、産褥期の生理、新生児期の生理とそれぞれに必要な管理について学ぶ。各期の正常からの逸脱を判断する検査法および、影響因子についてのアセスメントが行える知識を習得する。くわえて、女性のライフサイクル各期の健康課題と疾患について理解する。</p>			<ol style="list-style-type: none"> <li>1 妊娠による母体の変化 (多田)</li> <li>2 妊娠管理と産科診察 (多田)</li> <li>3 正常分娩の生理 (多田)</li> <li>4 分娩管理 (多田)</li> <li>5 産褥の生理 (多田)</li> <li>6 正常新生児の生理 (多田)</li> <li>7 女性生殖器と内分泌(1)(下屋)</li> <li>8 女性生殖器と内分泌(2)(下屋)</li> </ol>			
GIO(一般目標)						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 正常な妊娠による母体の形態機能と生理を理解する</li> <li>2 正常な分娩による母体の形態機能と生理を理解する</li> <li>3 正常な産褥期の母体の形態機能と生理を理解する</li> <li>4 正常な新生児期の形態機能と生理を理解する</li> <li>5 妊娠・分娩・産褥・新生児期の管理について理解する</li> </ol>						
SBO(行動目標)						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 正常な妊娠による母体の形態機能と生理を説明できる</li> <li>2 正常な分娩の経過と管理について説明できる</li> <li>3 産褥期の母体の形態機能の変化と復古について説明できる</li> <li>4 新生児期の母体の形態機能と生理を理解する</li> <li>5 妊娠・分娩・産褥・新生児期を安全に経過できるための知識を得る事ができる</li> </ol>						
準備学習の内容・留意事項						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 授業前にシラバス提示内容の事前学習を行い受講する</li> <li>2 授業回数 of 順番を変更することがある。変更内容は掲示板で知らせる</li> </ol>						
成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポートを含む)へのフィードバックの方法						
<p>授業への参加状況および定期試験による総合評価</p> <p>試験については、特に正答率の低かった問題などについての講評を掲示などにより行う</p>						
教科書 (紹介する参考図書もあれば記載)						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 プリンシプル産科婦人科学 2 産科編 第3版 メジカルビュー社</li> <li>2 産婦人科診療ガイドライン産科編2017 2017年</li> </ol>						
【参考図書】						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 NEWエッセンシャル 産科学・婦人科学 第3版 医歯薬出版社</li> <li>2 胎盤 臨床と病理からの視点 篠原出版新社</li> <li>3 病気がみえる Vol10 産科第3版</li> <li>4 助産学講座2 基礎助産学[2] 母子の基礎科学 2019年度版</li> <li>5 助産学講座3 基礎助産学[3] 母子の健康科学 2019年度版</li> <li>6 助産学講座5 助産診断・技術学 I 2019年度版</li> </ol>						
受講における注意事項						
特になし						

科目名	周産期医学Ⅱ		担当教員	原賀順子・牧尉太・光井崇		
開講学期	前期	授業形態	講義	必修	単位	1
授業概要			授業内容			
<p>正常な妊娠・分娩・産褥・新生児期の健康の管理を行うために、正常を逸脱した経過と疾患について理解する。具体的には、異常妊娠、合併症妊娠、産褥期の異常、新生児期の異常について、予防的観点を踏まえて学習する。また、母子と免疫、母子と感染、くわえて性感染症について最近の動向を踏まえて理解する。チーム医療と地域連携について学び、助産師の持つ役割を理解する。</p>			<p>1 異常分娩(1)(光井) 2 異常分娩(2)(光井) 3 異常産褥(光井) 4 合併症妊娠(1)(原賀) 5 合併症妊娠(2)(原賀) 6 異常新生児(光井) 7 異常妊娠(1)(牧) 8 異常妊娠(2)(牧)</p>			
GIO(一般目標)						
<p>1 正常を逸脱した妊娠経過について理解する 2 正常を逸脱した分娩について理解する 3 正常を逸脱した産褥経過について理解する 4 正常を逸脱した新生児について理解する 5 正常を逸脱した妊娠・分娩・産褥・新生児期の管理について理解する</p>						
SBO(行動目標)						
<p>1 正常を逸脱した妊娠による母体への影響を説明できる 2 正常を逸脱した分娩による母体への影響を説明できる 3 正常を逸脱した産褥による母体への影響を説明できる 4 正常を逸脱した新生児の生理について説明できる 5 正常を逸脱した妊娠・分娩・産褥・新生児期を安全に経過できるための管理について説明できる</p>						
準備学習の内容・留意事項						
<p>1 授業前にシラバス提示内容の事前学習を行い受講する 2 授業回数 of 順番を変更することがある。変更内容は掲示板で知らせる</p>						
成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポートを含む)へのフィードバックの方法						
<p>授業への参加状況および定期試験による総合評価 試験については、特に正答率の低かった問題などについての講評を掲示などにより行う</p>						
教科書(紹介する参考図書もあれば記載)						
<p>1 プリンシプル産科婦人科学 2 産科編 第3版 メジカルビュー社 2 産婦人科診療ガイドライン産科編2017 2017年</p>						
【参考図書】						
<p>1 NEWエッセンシャル 産科学・婦人科学 第3版 医歯薬出版社 2 胎盤 臨床と病理からの視点 篠原出版新社 3 病気がみえる Vol9 婦人科・乳腺外科 第3版 4 病気がみえる Vol10 産科 第3版 5 助産学講座2 基礎助産学[2] 母子の基礎科学 2019年度版 6 助産学講座3 基礎助産学[3] 母子の健康科学 2019年度版 7 助産学講座5 助産診断・技術学 I 2019年度版</p>						
受講における注意事項						
特になし						

科目名	新生児・乳幼児学		担当教員	萬木章		
開講学期	前期	授業形態	講義	必修	単位	1
授業概要			授業内容			
<p>新生児、乳幼児の生理について基礎的な理解を深め、正常な成長発達の知識と評価について学ぶ。また、正常を逸脱した新生児、乳幼児の診断と治療について理解する。出生から呼吸循環が変化し適応段階にある新生児から、家庭生活への移行の過程において必要な知識を得る。また、NICUとハイリスク新生児の生理的適応を助けるケアについて学ぶ。</p>			<ol style="list-style-type: none"> <li>1 新生児概論</li> <li>2 新生児診断学 新生児の管理</li> <li>3 新生児の生理</li> <li>4 新生児の呼吸器疾患</li> <li>5 新生児蘇生法</li> <li>6 新生児の循環器疾患 黄疸 消化器疾患</li> <li>7 血液疾患 免疫・感染症</li> <li>8 神経疾患 内分泌・代謝系疾患</li> </ol>			
GIO(一般目標)						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 新生児医療における用語を理解する</li> <li>2 新生児の診察法、検査について理解する</li> <li>3 新生児の生理について理解する</li> <li>4 新生児の蘇生方法を理解する</li> <li>5 新生児の主な疾患に関する知識を得る</li> </ol>						
SBO(行動目標)						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 新生児医療における用語を説明できる</li> <li>2 新生児の診察法を述べることができる。検査結果を判断できる</li> <li>3 新生児の生理について説明できる</li> <li>4 新生児の蘇生方法を述べ、実施できる</li> <li>5 新生児の主な疾患について説明できる</li> </ol>						
準備学習の内容・留意事項						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 授業前にシラバス提示内容の事前学習を行い受講する</li> <li>2 授業回数 of 順番を変更することがある。変更内容は掲示板で知らせる</li> </ol>						
成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポートを含む)へのフィードバックの方法						
<p>授業への参加状況および定期試験による総合評価(100%)  試験については、特に正答率の低かった問題などについての講評を掲示などにより行う</p>						
教科書 (紹介する参考図書もあれば記載)						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 『新生児学入門』第4版 仁志田博司著 医学書院 2012年</li> <li>2 「日本版救急蘇生ガイドライン2015に基づく新生児蘇生法テキスト」 第3版 2016年</li> </ol>						
【参考図書】						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 助産師基礎教育テキスト 2014年版第6巻 産褥期のケア 新生児期・乳幼児期のケア 2015年</li> <li>2 助産学講座 8 助産診断・技術学Ⅱ [3]新生児期・乳幼児期 2019年版</li> </ol>						
受講における注意事項						
特になし						

科目名	ヒューマンセクシュアリティ論		担当教員	橋本智恵美 特別講師(中瀬克己)		
開講学期	前期	授業形態	講義	必修	単位	1
授業概要			授業内容			
人間の性とは何かを学び、性を構成するさまざまな側面と意義について学ぶ。人の一生においてセクシュアリティの健康と権利について現代的な課題を踏まえて理解する。具体的には、人間にとっての性の意味、性の構造と機能、性反応、性行動などの側面を理解し、ライフサイクルにおいて成長する人間の性を理解する。			1 人間の性についての特性 2 多様な性への理解 3 ライフサイクルと人間の性 4 セクシャルヘルスに関する健康教育(1) 5 セクシャルヘルスに関する健康教育(2) 6 セクシャルヘルスに関する健康教育演習(1) 7 セクシャルヘルスに関する健康教育演習(2) 8 セクシャルヘルスに関する健康教育演習(3)			
GIO(一般目標)						
1 人間の性について人権的な視点で理解する 2 セクシャルライツと社会について知る 3 ライフサイクルで発達する性と健康課題を知る 4 多様な性への理解と支援について知る 5 性についての課題を理解する						
SBO(行動目標)						
1 性についての概念を理解できる 2 セクシャルヘルス・ライツについて説明できる 3 ライフサイクルにおける性とその支援について考察できる 4 性に関する被害や課題について法律や施策を理解できる 5 多様な性への理解について記事・文献を用いて考察できる						
準備学習の内容・留意事項						
1 授業前にシラバス提示内容の事前学習を行い受講する 2 授業回数 of 順番を変更することがある。変更内容は掲示板で知らせる						
成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポートを含む)へのフィードバックの方法						
1. 授業前の準備状況(10%) 2. 授業への参加状況(10%) 3. レポート課題(20%) 4. 期末試験(60%) レポートの不合格者については、問題点を指摘した上で、レポートの再提出を求める 試験については、特に正答率の低かった問題などについての講評を掲示などにより行う						
教科書(紹介する参考図書もあれば記載)						
なし						
【参考図書】						
1 SEXOLOGY NOTE 村瀬幸浩著 十月舎 2 性:セクシュアリティの看護 QOLの実現を目指して 松本清一監修 建帛社						
受講における注意事項						
1 レポートについては初回に示し、提出は最終回の授業前とする 2 各回のリフレクションシートの提出がない場合は出席とみなさい場合があるため注意する						

科目名	生命倫理と生殖医療		担当教員	石本傳江・中塚幹也		
開講学期	前期	授業形態	講義	必修	単位	1
授業概要			授業内容			
生殖医療の技術的発展は目覚ましいが、他方で社会倫理へのバイオレーションや法律による規制の必要性も問題となっている。生殖医療の当事者を取り巻く社会倫理上の問題や、家族法を中心とした現在の法律について学習し、助産の専門職としてその者の自己決定を支援するために必要な法的・社会的知識を習得する。			1 どこから「人」か～倫理, 刑法, 民法において(1)(石本) 2 どこから「人」か～倫理, 刑法, 民法において(2)(石本) 3 生殖医療と犯罪～ガイドラインや裁判例を中心に(1)(石本) 4 生殖医療と犯罪～ガイドラインや裁判例を中心に(2)(石本) 5 生殖医療と家族法(親子, 婚姻・離婚, 親権)(1)(石本) 6 生殖医療と家族法(親子, 婚姻・離婚, 親権)(2)(石本) 7 生殖医療と生命倫理(1)(中塚) 8 生殖医療と生命倫理(2)(中塚)			
GIO(一般目標)						
生殖医療の当事者及び関係者を取り巻く社会倫理上の問題や法律上の問題について、専門家として偏りのない知識を得る						
SBO(行動目標)						
1 医療の現場において、生殖医療に関する社会倫理上の問題や法律上の問題について、法的・倫理的に適切な判断ができる 2 医療の現場において、生殖医療の当事者に対し、社会倫理上の問題や法律上の問題について適切な情報提供ができる						
準備学習の内容・留意事項						
1 各授業の前に指定された資料がある場合は、これを検討したうえで受講する 2 授業回数の順番を変更することがある。変更内容は掲示板で知らせる						
成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポートを含む)へのフィードバックの方法						
定期試験、グループワークでの議論内容等による総合評価 試験については、特に正答率の低かった問題などについての講評を掲示などにより行う						
教科書(紹介する参考図書もあれば記載)						
家族法第4版(新法学ライブラリ)二宮周平(著) 第4版 2013年 医学書院 仁志田博司著 『出生と死をめぐる生命倫理 連続と不連続の思想』						
【参考図書】						
シリーズ生命倫理学 第6巻 生殖医療 2012年						
受講における注意事項						
授業内容は、変更になる場合があります						

科目名	家族社会学		担当教員	揚野裕紀子		
開講学期	前期	授業形態	講義	必修	単位	1
授業概要			授業内容			
<p>家族の社会的機能について理解を深め、母性・父性の発達について学ぶ。親と子の関係における課題を知り、家族が成長できる育児が実現できるような助産師の役割を知り、関係諸機関との連携のありかたを学ぶ。また、女性の生涯にわたる心理的な発達と危機について学び、ライフサイクル各期におけるウイメンズヘルスについて理解する。</p>			<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス・「家族」を理解するために</li> <li>2 家族の歴史的变化と多様化</li> <li>3 家族・貧困・福祉</li> <li>4 結婚は変化しているか</li> <li>5 就業と家族</li> <li>6 妊娠・出産・子育て・親子関係</li> <li>7 家族と法</li> <li>8 多様化する家族のゆくえ</li> </ol>			
GIO(一般目標)						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 家族の発達・成長を理解する</li> <li>2 家族における危機について知る</li> <li>3 近代家族の特性とその支援を知る</li> <li>4 女性のライフサイクルとメンタルヘルスを理解する</li> <li>5 社会の中の家族の意味を知る</li> </ol>						
SBO(行動目標)						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 家族についての必要な概念を理解する</li> <li>2 家族に関する理論を理解する</li> <li>3 家族の危機について説明でき必要な支援が考察できる</li> <li>4 家族の成長につながる助産師としての支援が考察できる</li> <li>5 家族社会学の研究領域について理解できる</li> </ol>						
準備学習の内容・留意事項						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 授業前にシラバス提示内容の事前学習を行い受講する</li> <li>2 授業回数の順番を変更することがある。変更内容は掲示板で知らせる</li> </ol>						
成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポートを含む)へのフィードバックの方法						
<p>授業への参加状況およびレポート内容による総合評価(100%)  レポートの不合格者については、問題点を指摘した上で、レポートの再提出を求める</p>						
教科書 (紹介する参考図書もあれば記載)						
<p>問いからはじめる家族社会学 -- 多様化する家族の包摂に向けて 有斐閣ストゥディア 2015</p>						
【参考図書】						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 家族はなぜうまくいかないのか—論理的思考で考える— 祥伝社新書2014</li> <li>2 家族と法—個人化と多様化の中で— 岩波新書 2007</li> </ol>						
受講における注意事項						
課題は、締切を厳守して提出すること						



科目名	母子の健康科学		担当教員	三宅貴仁・橋本智恵美・國本あゆみ		
開講学期	前期	授業形態	講義	必修	単位	1
授業概要			授業内容			
<p>母子の生活環境の変化による課題を知り、母子の健康を増進するための支援の方法を学ぶ。環境汚染や母子にとって有害となる薬剤などについて学び、母子への影響を知ることができる。また、母子の栄養について学び、栄養評価ができるようになる。母乳育児支援の基礎的な知識を得て、対象者への指導ができるようになる。</p>			<ol style="list-style-type: none"> <li>1 母子を取り巻く社会・生活環境(橋本)</li> <li>2 高齢出産における健康課題(三宅)</li> <li>3 母子感染症(三宅)</li> <li>4 周産期における薬剤(三宅)</li> <li>5 産科救急(三宅)</li> <li>6 母子の健康(歯科保健)</li> <li>7 母子の栄養(妊娠期)(國本)</li> <li>8 母子の栄養(分娩・産褥期)(國本)</li> </ol>			
GIO(一般目標)						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 母子の生活環境の変化を理解する</li> <li>2 母子に有害な影響を与える環境を知る</li> <li>3 母子と薬剤の影響を知る</li> <li>4 母子に必要な栄養の基礎知識を得る</li> <li>5 母乳育児についての知識を得る</li> </ol>						
SBO(行動目標)						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 母子に影響のある環境保全について意見を述べるができる</li> <li>2 母子の歯科保健を説明できる</li> <li>3 薬剤の母子への影響を考察できる</li> <li>4 母子の各期の栄養について理解できる</li> <li>5 母乳育児の意義が説明できる</li> </ol>						
準備学習の内容・留意事項						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 授業前にシラバス提示内容の事前学習を行い受講する</li> <li>2 授業回数の順番を変更することがある。変更内容は掲示板で知らせる</li> </ol>						
成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポートを含む)へのフィードバックの方法						
<p>授業への参加状況および定期試験による総合評価(100%)  試験については、特に正答率の低かった問題などについての講評を掲示などにより行う</p>						
教科書(紹介する参考図書もあれば記載)						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 助産学講座3 基礎助産学[3] 母子の健康科学 2019年度版</li> <li>2 今、これだけは知っておきたい! 妊娠・授乳と薬Q&amp;A2013年</li> </ol> <p>【参考図書】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 母子健康・栄養ハンドブック 医歯薬出版</li> <li>2 日本人の食事摂取基準 2015年度版 一厚生労働省「日本人の食事摂取基準」策定検討会報告書一</li> <li>3 病気がみえる Vol. 10 第3版 メディックメディア</li> <li>4 助産師基礎教育テキスト6 産褥期のケア 新生児期・乳幼児期のケア 2019年</li> <li>5 子どもの食と栄養 改定第2版 2014年</li> </ol>						
受講における注意事項						
特になし						

科目名	助産診断学・技術学 I		担当教員	難波亜希子・橋本智恵美		
開講学期	前期	授業形態	講義・演習	必修	単位	1
授業概要			授業内容			
助産診断を行う上での基礎となる援助技術を習得する。ライフサイクルにおける健康支援を理解し、各時期に起こる課題について解決するためのアプローチ法を修得する。ここでは、特に家族計画に関する指導について、女性と家族の発達段階に応じて、基礎的な知識、法的な知識について知り、受胎調節方法を指導できる知識を得る。			1 助産診断と援助技術とは(難波) 2 思春期女性への支援(難波) 3 成熟期女性への支援(難波) 4 就労女性への支援(橋本) 5 更年期女性への支援(橋本) 6 老年期女性への支援(橋本) 7 助産診断(1)妊娠期(難波) 8 助産診断(2)分娩期(難波) 9 助産診断(3)産褥期(難波) 10 助産診断(4)新生児期(難波) 11 助産診断(5)各期のまとめ(難波) 12 家族計画に必要な基礎知識(難波) 13 受胎調節法(難波) 14 国際社会とリプロダクティブ・ヘルス/ライツ(難波) 15 援助に必要な助産活動と倫理(難波)			
GIO(一般目標)						
1 助産師としての診断・援助の必要性を知る 2 女性のライフサイクルの健康問題を理解する 3 家族計画支援について理解する 4 受胎調節法について理解する 5 国際的な家族計画支援を理解する						
SBO(行動目標)						
1 助産師として女性のライフサイクルに必要な診断・技術を説明できる 2 助産診断に必要な知識を得ることができる 3 家族計画指導の意味を説明できる 4 受胎調節法の指導案を作成できる 5 女性への援助と助産師の倫理的態度を知ることができる						
準備学習の内容・留意事項						
1 授業前にシラバス提示内容の事前学習を行い受講する 2 授業回数の順番を変更することがある。変更内容は掲示板で知らせる						
成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポートを含む)へのフィードバックの方法						
授業への参加状況および定期試験による総合評価(100%)						
試験については、特に正答率の低かった問題などについての講評を掲示などにより行う						
教科書(紹介する参考図書もあれば記載)						
1 プリンシプル産科婦人科学 2 産科編 第3版 メジカルビュー社 2 胎児心拍モニタリング講座 改定3版 2017年 3 助産学講座(6) 助産診断・技術学Ⅱ(1)妊娠期 2019年度版 4 今日の助産—マタニティサイクルの助産診断・実践過程 第3版 2013年 5 マタニティ診断ガイドブック 第5版 2015年						
【参考図書】						
1 助産師のためのフィジカルイグザミネーション 医学書院 2 助産師基礎教育テキスト 2 女性の健康とケア 2019年 3 助産師基礎教育テキスト 4 妊娠期の診断とケア 2019年 4 レビューブック産婦人科2018-2019						
受講における注意事項						
1 受胎調節実地指導員資格に関係する科目である 2 女性の健康支援と健康教育の科目と関連するため、各講義の資料を持ってくる						

科目名	助産診断学・技術学Ⅱ		担当教員	難波亜希子・藤井宏子・浅桐和男・橋本智恵美		
開講学期	前期	授業形態	講義・演習	必修	単位	2
授業概要			授業内容			
助産診断を行うための助産過程について概念を理解し、助産診断の構成される要素について学ぶ。また、妊婦の身体的・心理的・社会的変化とアセスメントを行い、日常生活への支援と、親になる準備について理解する。また、ハイリスク・異常妊婦のアセスメントと支援についても学習する。くわえて、産婦の身体的・心理的・社会的変化とアセスメントを行い、安全な出産についての援助技術を修得する。			1 助産過程に必要な概念と定義(難波) 2 助産診断学に必要な助産師の能力(難波) 3 妊娠の成立と生理(難波) 4 妊娠期の異常(難波) 5 ハイリスク妊娠と支援(藤井) 6 生殖補助医療と家族支援(難波) 7 妊婦の日常生活支援(MC前期指導案作成①)(難波) 8 出産準備支援(MC後期指導案作成①)(難波) 9 妊娠期のマイナートラブルへの支援(MC前期指導案作成②)(難波) 10 妊娠期の助産過程(診断の特徴と着目点)①(難波) 11 妊娠期の助産過程(診断に必要な情報)②(難波) 12 妊娠期の助産過程(診断とケア計画)③(難波) 13 ハイリスク妊婦の診断・技術(経過診断)(藤井) 14 ハイリスク妊婦の診断・技術(健康生活診断)(藤井) 15 正常分娩の診断・技術(分娩介助の意義)(橋本) 16 正常分娩の診断・技術(正常分娩介助法の原理)(橋本) 17 正常分娩の診断・技術(分娩介助時の技術)(橋本) 18 異常分娩の診断・技術(診断に必要な情報)(藤井) 19 異常分娩の診断・技術(診断とケア計画)(藤井) 20 分娩期の助産過程(診断の特徴と着目点)(難波) 21 分娩期の助産過程(診断に必要な情報)(難波) 22 分娩期の助産診断(診断とケア計画)(難波) 23 妊娠期における検査(浅桐) 24 産科における手術①(浅桐) 25 産科における手術②(浅桐) 26 産科における縫合術(浅桐) 27 胎児心拍モニタリング(胎児心拍モニタリングの有用性)(難波) 28 胎児心拍モニタリング(胎児well-being評価法)(難波) 29 分娩介助演習①(難波他) 30 分娩介助演習②(難波他)			
GIO(一般目標)						
1 助産診断を行うための概念を理解する 2 妊娠期・分娩期の助産技術を習得する 3 ハイリスク妊婦・産婦への支援を知る 4 助産診断に必要な助産師の態度を理解する 5 妊娠期・分娩期の助産技術の評価の方法を知る						
SBO(行動目標)						
1 妊娠期・分娩期の助産過程について必要な概念を説明できる 2 妊娠期・分娩期の助産過程に必要な医学的知識を理解できる 3 妊娠期・分娩期の診断・技術の習得ができる 4 妊娠期・分娩期の助産過程が習得できる 5 ハイリスク妊婦・産婦の支援が説明できる						
準備学習の内容・留意事項						
授業前にシラバス提示内容の事前学習を行い受講する授業回数の順番を変更することがある。変更内容は掲示板で知らせる						
成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポートを含む)へのフィードバックの方法						
①授業への参加状況および定期試験による総合評価(100%) 試験については、特に正答率の低かった問題などについての講評を掲示などにより行う						
教科書(紹介する参考図書もあれば記載)						
1 プリンシプル産科婦人科学 2 産科編 第3版 メジカルビュー社 2 助産学講座(6)助産診断・技術学Ⅱ(1)妊娠期2019年度版 3 今日の助産—マタニティサイクルの助産診断・実践過程 第3版 2013年 4 本郷寛子著 母乳育児支援コミュニケーション術 南山堂 2012年 5 ブラッシュアップ助産学正常分娩の助産術 医学書院 6 胎児心拍モニタリング講座 第3版 2017年						
【参考図書】						
1 助産師のためのフィジカルイグザミネーション 医学書院 2018年 2 助産師基礎教育テキスト5 分娩期の診断とケア 2019年 3 レビューブック産婦人科2018-2019 4 体位別フリースタイル分娩介助法—回旋がわかれば介助がわかる! 2007年						
受講における注意事項						
1 実習に必要な科目となるため、全出席を原則とする						

科目名	助産診断学・技術学Ⅲ		担当教員	難波亜希子・野中美代・橋本智恵美		
開講学期	前期	授業形態	講義・演習	必修	単位	2
授業概要			授業内容			
産褥期・新生児期の変化と適応についてアセスメントを行い、正常な経過となるための助産技術を獲得する。ここでは、母乳育児支援や子育て支援についても理解する。演習科目として、各時期の保健指導の実際を学び、主体的に対象に適した保健指導の計画立案ができるように学習する。			1 母乳育児支援(世界と日本の母乳育児支援運動の潮流)(野中) 2 母乳育児支援(母乳育児支援に必要なエモーショナル・サポートと情報提供)(野中) 3 母乳育児支援(乳児の栄養)(野中) 4 母乳育児支援(母乳と授乳に関する基礎医学)(野中) 5 産褥・新生児期の助産診断(難波) 6 産褥・新生児期の助産診断に必要な能力(難波) 7 産褥期の生理(退院指導案作成①)(難波) 8 新生児の生理(沐浴指導案作成①)(難波) 9 産褥期の異常(退院指導案作成②)(難波) 10 育児支援と社会資源(沐浴指導案作成②)(橋本) 11 育児支援と社会資源(沐浴指導案作成③)(橋本) 12 産褥期のマイナートラブルへの支援(退院指導案作成③)(橋本) 13 産褥初期診断・技術(産褥期助産過程①)(難波・橋本) 14 産褥期の診断・技術(産褥期助産過程②)(難波・橋本) 15 産褥期の診断・技術(産褥期助産過程③)(難波・橋本) 16 周産期における助産過程(難波) 17 周産期における助産過程(難波) 18 分娩介助技術(付属物の検査と計測)(橋本) 19 分娩介助技術(産婦・褥婦の支援の基本)(橋本) 20 母乳育児支援(乳児の吸啜と嚥下)(野中) 21 分娩介助技術演習①(難波・橋本他) 22 分娩介助技術演習②(難波・橋本他) 23 分娩介助技術演習③(難波・橋本他) 24 母乳育児支援(入院中の母乳育児支援他)(野中) 25 ハイリスク褥婦の診断・技術(難波) 26 周産期の異常とペリネイタルロス(難波) 27 ハイリスク新生児への支援 ncpr(新生児蘇生法) 28 新生児期の診断・技術(新生児期助産診断) ncpr 29 分娩介助技術(出生直後の新生児のケア) ncpr 30 ハイリスク新生児の診断・技術 ncpr			
GIO(一般目標)						
1 産褥期・新生児期の助産診断を理解する 2 産褥期・新生児期の助産技術を習得する 3 ハイリスク褥婦・新生児への支援を知る 4 産褥期・新生児の助産診断に必要な助産師の態度を理解する 5 産褥期・新生児期の技術の評価の方法を知る						
SBO(行動目標)						
1 産褥期・新生児期の助産診断・技術の習得ができる 2 助産診断から保健指導の計画立案ができる 3 評価方法が理解できる 4 母乳育児支援について説明できる 5 子育て支援について説明できる						
準備学習の内容・留意事項						
授業前にシラバス提示内容の事前学習を行い受講する授業回数の順番を変更することがある。変更内容は掲示板で知らせる						
成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポートを含む)へのフィードバックの方法						
①授業への参加状況および定期試験による総合評価(100%)試験については、特に正答率の低かった問題などについての講評を掲示などにより行う。						
教科書(紹介する参考図書もあれば記載)						
1 助産学講座 7 助産診断・技術学Ⅱ(2)分娩期・産褥期 2019年版 2 助産学講座 8 助産診断・技術学Ⅱ(3)新生児期・乳幼児期 2019年版 3 母乳育児支援スタンダード 医学書院 第2版 2015年 4 実践マタニティ診断第4版 2016年 5 今日の助産—マタニティサイクルの助産診断・実践過程 第3版 2013年 6 母乳育児支援コミュニケーション術 南山堂 2012年						
【参考図書】						
1 助産師基礎教育テキスト6 産褥期のケア 新生児期・乳幼児期のケア 2019年 2 厚生労働省雇用均等・児童家庭局母子保健課「授乳・離乳支援ガイド」平成19年3月 <a href="http://www.mhlw.go.jp/shingi/2007/03/s0314-17.html">http://www.mhlw.go.jp/shingi/2007/03/s0314-17.html</a>						
受講における注意事項						
1 実習に必要な科目となるため、全出席を原則とする						

科目名	フィジカルアセスメント		担当教員	難波亜希子・橋本智恵美・則武由美子他		
開講学期	前期	授業形態	講義・演習	必修	単位	1
授業概要			授業内容			
<p>周産期における妊産褥婦と新生児の形態機能および生理を理解し、各機の身体機能と適応が正常に経過できるようにフィジカルアセスメントの技術を身につける。また、アセスメントを行う上で必要となる医学的知識と助産ケアを修得する。</p>			<ol style="list-style-type: none"> <li>1 全身のフィジカルアセスメントの意義と目的(難波)</li> <li>2 全身のフィジカルアセスメントの基本技術(難波)</li> <li>3 助産師としての問診とフィジカルアセスメント(難波)</li> <li>4 妊娠期のフィジカルアセスメント(問診・視診)(橋本)</li> <li>5 妊娠期のフィジカルアセスメント(聴診・計測診)(橋本)</li> <li>6 妊娠期のフィジカルアセスメント(触診)(橋本)</li> <li>7 分娩期のフィジカルアセスメント(問診)(橋本)</li> <li>8 分娩期のフィジカルアセスメント(視診・触診)(橋本)</li> <li>9 分娩期のフィジカルアセスメント(内診)(難波)</li> <li>10 産褥期のフィジカルアセスメント(問診)(橋本)</li> <li>11 産褥期のフィジカルアセスメント(視診・触診)(橋本)</li> <li>12 産褥期のフィジカルアセスメント(演習)(難波・橋本他)</li> <li>13 事例を用いたフィジカルアセスメントの実際(難波・橋本)</li> <li>14 新生児期のフィジカルアセスメント(視診・聴診・触診)(則武)</li> <li>15 新生児期のフィジカルアセスメント(演習)(難波・橋本・則武他)</li> </ol>			
GIO(一般目標)						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 フィジカルアセスメントの基本を理解する</li> <li>2 非妊女性のフィジカルアセスメントを理解する</li> <li>3 妊娠期のフィジカルアセスメントを理解する</li> <li>4 分娩期期のフィジカルアセスメントを理解する</li> <li>5 産褥期のフィジカルアセスメントを理解する</li> <li>6 新生児期のフィジカルアセスメントを理解する</li> </ol>						
SBO(行動目標)						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 フィジカルアセスメントにおける助産師の基本的姿勢を説明できる</li> <li>2 フィジカルアセスメントの基本技術が理解できる</li> <li>3 非妊女性のフィジカルアセスメントの技術が習得できる</li> <li>4 周産期の女性及び新生児のフィジカルアセスメントの技術が習得できる</li> <li>5 周産期の女性及び新生児の包括的なアセスメントができ、正常異常の判断ができる</li> </ol>						
準備学習の内容・留意事項						
<p>授業前にシラバス提示内容の事前学習を行い受講する</p> <p>授業回数 of 順番を変更することがある。変更内容は掲示板で知らせる</p>						
成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポートを含む)へのフィードバックの方法						
<p>授業への参加状況および定期試験による総合評価(100%)</p> <p>試験については、特に正答率の低かった問題などについての講評を掲示などにより行う</p>						
教科書(紹介する参考図書もあれば記載)						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 助産師のためのフィジカルイグザミネーション 医学書院 2018年</li> <li>2 助産学講座 6 助産診断・技術学Ⅱ(1)妊娠期 2019年度版</li> <li>3 助産学講座 7 助産診断・技術学Ⅱ(2)分娩期・産褥期 2019年度版</li> <li>4 助産学講座 8 助産診断・技術学Ⅱ(3)新生児期・乳幼児期 2019年度版</li> </ol>						
【参考図書】						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 今日の助産—マタニティサイクルの助産診断・実践過程 第3版 2013年</li> <li>2 助産師基礎教育テキスト4 妊娠期の診断とケア 2019年</li> <li>3 助産師基礎教育テキスト5 分娩期の診断とケア 2019年</li> <li>4 助産師基礎教育テキスト6 産褥期のケア／新生児期・乳幼児期のケア 2019年</li> </ol>						
受講における注意事項						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 実習に必要な科目となるため、全出席を原則とする</li> <li>2 臨床的なアセスメントに関する文献や参考書を読み、理解を深める</li> </ol>						

科目名	周産期ハイリスクケア論		担当教員	藤井宏子		
開講学期	前期	授業形態	講義	必修	単位	1
授業概要			授業内容			
ハイリスク状態にある妊産褥婦と新生児や家族に対して、助産師として質の高いケアを提供できる事を目指し、基礎的な知識を得るとともに、専門的なケアの実際を学ぶ。具体的には異常と疾患の理解、心理社会的ハイリスク、NICU看護を学ぶ。また、不妊治療や出生前診断等の生殖医療を受ける対象者に対する助産ケアを学ぶ。			1 妊娠期の異常と助産ケア 支援の基本他 2 社会的心理的ハイリスク妊婦のケア 3 分娩期の異常と助産ケア 4 産褥期の異常と助産ケア 5 新生児期の異常と助産ケア(支援の基本) 6 新生児期の異常と助産ケア(事例による演習) 7 出生前診断と生殖補助医療① ディベート 別紙あり 8 出生前診断と生殖補助医療② ディベート別紙あり			
GIO(一般目標)						
1 周産期におけるハイリスクケアの重要性と助産師の役割を理解する 2 異常徴候を早期発見できる知識と観察の重要性を理解する 3 周産期に発生しやすい主な産科異常や合併症をもつ妊産褥婦、新生児の疾患について理解する 4 心理社会的ハイリスク妊産褥婦と家族の特徴を理解する 5 遺伝医学、生殖補助医療の基礎知識と諸問題について理解する						
SBO(行動目標)						
1 周産期におけるハイリスクケアの重要性とチーム医療での助産師の役割について説明できる 2 異常徴候の早期発見に必要な観察点について述べる事ができる 3 産科異常や合併症をもつ対象への観察、治療の支援とともに、母体・胎児への安全な生活上の工夫を考える事ができる 4 心理社会的ハイリスク妊産褥婦と家族に対する助産ケアについて説明することができる 5 遺伝検査、生殖補助医療を受ける対象への助産ケアについて説明することができる						
準備学習の内容・留意事項						
1 授業前にシラバス提示内容の事前学習を行い受講する 2 授業回数の順番を変更することがある。変更内容は掲示板で知らせる						
成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポートを含む)へのフィードバックの方法						
授業への参加状況および定期試験による総合評価(100%) 試験については、特に正答率の低かった問題などについての講評を掲示などにより行う						
教科書(紹介する参考図書もあれば記載)						
1 日本版救急蘇生ガイドライン2015に基づく新生児蘇生法テキスト 第3版 2016年 2 MFICUマニュアル改訂3版 メディカ出版 2015年						
【参考図書】						
1 最新産科学 正常編 第22版 2008年 2 最新産科学 異常編 第22版 2012年 3 新生児学入門 第4版 2012年 4 助産学講座 6 助産診断・技術学Ⅱ[1]妊娠期 2019年度版 5 助産学講座 7 助産診断・技術学Ⅱ[2]分娩期・産褥期 2019年度版 6 助産学講座 8 助産診断・技術学Ⅱ[3]新生児期・乳幼児期 2019年度版 7 助産師基礎教育テキスト7 ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア 2019年度版						
受講における注意事項						
実習に必要な科目となるため、全出席を原則とする						

科目名	地域母子保健論		担当教員	目良宣子		
開講学期	前期	授業形態	講義	必修	単位	1
授業概要			授業内容			
地域における母子保健活動についてのしくみと意義を理解する。母子保健の現状と課題について、統計資料を用いて理解し、主な母子保健施策と目指すべき支援活動について知識を得る。住民の多様なニーズについてアセスメントできる力を養う。また、国際化による国内外の母子保健や活動内容について知るとともに、在日外国人への支援についても理解する。			1 母子保健の概念および母子保健の動向と現状 2 母子保健行政の体系(関係法規と制度) 3 母子保健施策 4 母子保健活動の展開 5 母子のライフサイクルへの支援 6 母子訪問活動の理論と実際 7 地域子育て支援 8 国際化時代の母子保健			
GIO(一般目標)						
1 母子の健康に影響を及ぼす地域の特性を理解する 2 主要な母子保健指標の現状とその推移を理解する 3 母子保健行政の体系を理解する 4 母子保健活動の展開を法的根拠と共に理解する 5 母子保健に係る関係機関の役割と機能を理解する						
SBO(行動目標)						
1 母子の健康に影響を及ぼす地域の特性を述べることが出来る 2 主要な母子保健指標の現状とその推移について調べることが出来る 3 母子保健行政の体系を説明できる 4 母子保健活動の展開を法的根拠に関連付けて説明できる 5 母子保健に係る関係機関の役割と機能を説明できる						
準備学習の内容・留意事項						
1 授業前にシラバス提示内容の事前学習を行い受講する 2 授業回数の順番を変更することがある。変更内容は掲示板で知らせる						
成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポートを含む)へのフィードバックの方法						
授業への参加状況および定期試験による総合評価(100%) 試験については、特に正答率の低かった問題などについての講評を掲示などにより行う						
教科書(紹介する参考図書もあれば記載)						
1 助産学講座9 地域母子保健・国際母子保健第5版 2018年版 2 国民衛生の動向 2017-2018						
【参考図書】						
1 助産師業務要覧 第3版(I 基礎編) 日本看護協会出版社 2019年度版 2 助産師業務要覧 第3版(II 実践編) 日本看護協会出版社 2019年度版 3 わが国の母子保健 平成30年 母子保健事業団 2018年 4 母子保健マニュアル 改訂7版 南山堂 2010年 5 母子保健の主なる統計 H30年度						
受講における注意事項						
特になし						

科目名	助産管理		担当教員	藤井宏子・岡本ゆり・虫明さとみ 特別講師(長谷川喜久美)		
開講学期	前期	授業形態	講義	必修	単位	1
授業概要			授業内容			
周産期医療システムについて理解し、助産業務の管理、助産所の運営について基本的な知識を得る。また、周産期における医療安全において、助産師の活動の場の特徴を知り、医療事故を起こさない対策についても修得する。			1 助産管理の基本的概念の理解(藤井) 2 助産サービスの質と管理(藤井) 3 助産と医療経済(藤井) 4 助産管理に関連する法規と制度(岡本) 5 周産期医療システム(岡本) 6 病院におけるリスクマネジメント(岡本) 7 病院における助産業務管理(岡本) 8 助産業務ガイドライン(正常分娩時)(藤井) 9 助産業務ガイドライン(医療安全)(藤井) 10 助産所の運営と社会的役割(虫明) 11 助産所におけるリスクマネジメント①(虫明) 12 助産業務ガイドライン策定への経緯(特別講師) 13 助産業務ガイドラインの活用(特別講師) 14 助産所におけるリスクマネジメント②(虫明) 15 助産所における助産管理(藤井)			
GIO(一般目標)						
1 周産期医療システムについて理解する 2 病産院における助産業務管理について知る 3 助産院における助産業務管理について知る 4 周産期における医療安全について理解できる 5 助産管理に関連する法規と社会制度を知る						
SBO(行動目標)						
1 助産管理の基本概念について説明できる 2 助産管理と関連法規を理解できる 3 周産期における医療安全を具体的に説明できる 4 助産管理に関する最新の情報について調べることができる 5 助産所の運営について助産師の役割を踏まえて理解できる						
準備学習の内容・留意事項						
1 授業前にシラバス提示内容の事前学習を行い受講する 2 授業回数の順番を変更することがある。変更内容は掲示板で知らせる						
成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポートを含む)へのフィードバックの方法						
授業への参加状況および定期試験による総合評価(100%) 試験については、特に正答率の低かった問題などについての講評を掲示などにより行う						
教科書(紹介する参考図書もあれば記載)						
1 助産学講座10 助産管理 第5版 2018版 2 新版 助産師業務要覧 第3版(Ⅱ実践編)2019年度版 3 助産業務ガイドライン第3版 2014年						
【参考図書】						
1 助産師基礎教育テキスト3 周産期における医療の質と安全 2019年						
受講における注意事項						
1 各担当教員の授業形態を確認後受講する						



科目名	女性の健康支援と健康教育		担当教員	難波亜希子・橋本智恵美 他		
開講学期	前期	授業形態	講義・演習	必修	単位	1
授業概要			授業内容			
<p>女性と母子の健康課題の予防と解決に向け、健康教育の基礎的な知識を得て、その方法を学ぶ。ここでは母子の健康教育と女性のライフステージにおいて必要な健康教育について企画・運営を体験し評価できる。集団指導を効果的に行う技法についての工夫を考えることができる。</p>			<ol style="list-style-type: none"> <li>1 女性の健康支援と健康教育(難波)</li> <li>2 妊娠期の保健指導と健康教育(MC後期指導案作成②)(難波)</li> <li>3 妊娠期の保健指導と健康教育(MC後期指導案作成③)(難波)</li> <li>4 妊娠期の保健指導と健康教育(MC前期指導案作成③)(難波)</li> <li>5 産褥期の保健指導と健康教育(MC前期指導案発表)(全員)</li> <li>6 産褥期の保健指導と健康教育(MC後期指導案発表)(全員)</li> <li>7 産褥期の保健指導と健康教育(沐指・退院指導発表)(全員)</li> <li>8 更年期女性への健康教育(難波)</li> <li>9 就労女性への保健指導と健康教育(難波)</li> <li>10 国際社会での女性の健康支援(難波)</li> <li>11 思春期の健康教育(指導案作成)(難波)</li> <li>12 思春期の健康教育(実践・評価)①(難波)</li> <li>13 思春期の健康教育(実践・評価)②(難波)</li> <li>14 思春期の健康教育(実践・評価)③(難波)</li> <li>15 思春期の健康教育(実践・評価)④(難波)</li> </ol>			
GIO(一般目標)						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 女性のライフステージにおける健康支援を理解する</li> <li>2 妊娠・出産に伴う健康障害をおこさない支援を理解する</li> <li>3 すべての女性に等しく健康支援が受けれるアプローチ法を知る</li> <li>4 健康教育に必要な知識・技能を習得する</li> <li>5 健康教育の指導案を立案し実践・評価に向けた知識を得る</li> </ol>						
SBO(行動目標)						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 女性のライフステージに起こりやすい健康障害と保健指導サービスが説明できる</li> <li>2 妊娠・出産の母親になる過程を理解し、家族を含めた保健指導の必要性が説明できる</li> <li>3 妊娠・出産の母親になる過程を理解し、家族を含めた保健指導ができる</li> <li>4 個別指導・集団指導の特徴を理解し、対象に合わせた健康教育が選択できる</li> <li>5 すべての女性への健康支援が行える制度を理解できる</li> </ol>						
準備学習の内容・留意事項						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 授業前にシラバス提示内容の事前学習を行い受講する</li> <li>2 授業回数の順番を変更することがある。変更内容は掲示板で知らせる</li> </ol>						
成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポートを含む)へのフィードバックの方法						
<p>授業への参加状況および定期試験による総合評価(100%)</p> <p>試験については、特に正答率の低かった問題などについての講評を掲示などにより行う</p>						
教科書(紹介する参考図書もあれば記載)						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 助産学講座5 助産診断・技術学 I 2019年版</li> <li>2 マタニティサイクルの実践保健指導・妊娠期 2013年</li> <li>3 マタニティサイクルの実践保健指導・産褥期 2013年</li> </ol>						
【参考図書】						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 助産師基礎教育テキスト6 産褥期のケア 新生児期・乳幼児期のケア 2019年版</li> <li>2 プリンシプル産科婦人科学 1 婦人科編 2014年</li> <li>3 プリンシプル産科婦人科学 2 産科編 2014年</li> <li>4 病気がみえる Vol9 婦人科・乳腺外科 第3版 2013年</li> <li>5 病気がみえる Vol10 産科第3版 2013年</li> </ol>						
受講における注意事項						
特になし						

科目名	助産学実習 I		担当教員	難波亜希子・橋本智恵美・則武由美子・渡部典子		
開講学期	通年	授業形態	実習	必修	単位	1
授業概要			授業内容			
助産学実習における基礎的な実習として位置づけ、主に外来における様々な助産活動に参加する。助産師としてのアイデンティティ形成の機会とし、今後に向けた課題を見出す。実習は5日間とし、当該実習病院で妊婦健康診査を受け、同院で分娩を予定している初産婦(継続事例1例)の受け持ち許可を得る。受け持ち妊婦の妊娠各期の助産診断を行い、助産診断に基づいた援助を行う。			実習期間:5日間 [実習内容] 1) 妊娠期の助産診断(妊婦健診) 2) 継続事例のマタニティアセスメント 3) 妊娠期の保健指導 4) 助産師外来実習 5) 外来における助産活動			
GIO(一般目標)						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 妊娠期にある女性とその家族に対して、助産診断実践過程を展開し、助産師としての基礎的能力を修得する</li> <li>2 母子とその家族の健康生活を援助するために助産師が果たすべき役割と責務について知る</li> <li>3 助産師外来、母乳育児支援など外来で行われる保健指導の実際を学び、助産師の専門性を理解する</li> <li>4 妊娠・分娩・産褥各期にある女性とその家族が活用できる社会資源および保健・医療・福祉関係者との連携の必要性を理解する</li> </ol>						
SBO(行動目標)						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 妊婦健診時に妊婦との良好な人間関係を築きながら必要な情報が収集できる</li> <li>2 収集した情報から妊娠経過を診断し、今後の経過を予測して説明できる</li> <li>3 妊婦の健康診査と必要な保健指導を見学(一部実践)できる</li> <li>4 妊婦および胎児の健康状態および安定した妊娠生活の維持や分娩・育児の準備に向けた説明が見学(一部実践)できる</li> <li>5 妊娠・分娩・産褥各期にある女性とその家族が活用できる社会資源について説明ができる</li> <li>6 助産師の専門性について説明することができる</li> </ol>						
準備学習の内容						
シラバス提示内容の事前学習を行い実習に臨む						
成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポートを含む)へのフィードバックの方法						
実習態度、内容、記録物等を総合判断して評価する(100%) フィードバックを希望する学生については、個別に資料を基に説明を行う						
教科書(紹介する参考図書もあれば記載)						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 今日の助産:北川真理子 南江堂</li> <li>2 マタニティ診断ガイドブック 第5版 2015年</li> <li>3 助産学講座(6) 助産診断・技術学Ⅱ(1)妊娠期 2019年版</li> <li>4 助産学講座(7) 助産診断・技術学Ⅱ(2)分娩期・産褥期 2019年版</li> </ol>						
【参考図書】						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 病気が見える 産科:医療情報科学研究所</li> <li>2 妊娠期の診断とケア:森恵美 日本看護協会出版会</li> <li>3 基礎助産学4 母子の心理と社会学:村瀬聡美 医学書院</li> </ol>						
受講における注意事項						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 実習は原則全出席として評価の対象となる</li> <li>2 妊婦への配慮を考え、体調の悪い場合は教員へ必ず報告をして指示を得る</li> </ol>						

科目名	助産学実習Ⅱ		担当教員	難波亜希子・橋本智恵美・則武由美子・渡部典子		
開講学期	通年	授業形態	実習	必修	単位	8
授業概要			授業内容			
分娩期から産褥期・新生児期にある対象者とその家族に対する助産活動に必要な実践力を養う。正常事例を中心に10例程度の分娩介助を実践し、母子にとって最適な助産ケアを展開する。分娩介助事例に対する産褥期の助産ケアは段階的に実施する。助産実習Ⅰで決定した原則1例の母子継続事例については、分娩介助を行い、産褥(生後)1ヶ月まで受け持ち、助産ケアを実践する。また、集団を対象とした健康教育を実践し、助産実践能力を養う。			実習期間:40日間 [実習内容] 1) 正常分娩介助、助産過程 2) 産褥期における助産過程 3) 新生児期における助産過程 4) 帝王切開術を受ける母児への助産過程 5) 集団を対象とした健康教育の実践			
GIO(一般目標)						
1 妊娠・分娩・産褥・新生児期にある対象者とその家族の健康生活を援助するために、助産診断および助産技術を基盤とした助産過程を展開し、助産師としての基礎的実践能力を修得する 2 正常に経過している産婦の分娩介助を安全に行うために必要な助産診断および助産技術を修得する 3 産褥・新生児期の助産診断および助産ケアの提供に必要な基礎的実践スキルを修得する 4 育児技術獲得への支援を理解し、家庭での育児適応に向けた助産実践を知る 5 継続事例においては、妊娠期から産褥(生後)1ヶ月まで一貫して実施されるフィジカルアセスメントとケアを学び、個性ある助産過程を展開する						
SBO(行動目標)						
1 妊娠経過をアセスメントし、正常な分娩経過をたどるために必要な助産ケアを説明できる 2 妊娠経過と入院時の状況から助産診断を行い、分娩経過を予測することができる 3 安全で安楽な分娩経過の促進に向けた助産計画を立案し、実施することができる 4 正常経過をたどる産婦に修得した助産技術を用いて指導者の指導のもとで分娩介助を実施できる 5 出産直後の母子が安全に経過するように、出産直後の母子への助産ケアが実施できる 6 早期母子接触への支援と家族形成への支援を行い、母親役割取得への援助ができる 7 上記1～6までを振り返り、助産診断、助産計画、実施を評価し、自らの課題を見出すことができる 8 産褥期における母体の全身状態の回復と退行性変化、進行性変化をアセスメントし、マタニティ診断に基づき助産実践できる 9 早期新生児期の児の適応過程についてアセスメントし、マタニティ診断に基づき助産実践できる 10 母子に必要な助産ケアと保健指導を知ることができ、指導のもとに適切な方法を用いて助産実践できる 11 母子に必要な退院後の支援について知ることができ、関係機関との連携により家庭での子育てへの移行を支援できる 12 退院後の母子の健康と子育ての状況をアセスメントし、必要な助産ケア、保健指導を指導のもとに実践できる 13 継続事例の助産過程展開においては、妊娠期から築いた信頼関係を生かし、対象者が望む助産ケアが実践できる						
準備学習の内容						
シラバス提示内容の事前学習を行い実習に臨む						
成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポートを含む)へのフィードバックの方法						
実習態度、内容、記録物等を総合判断して評価する(100%)						
フィードバックを希望する学生については、個別に資料を基に説明を行う						
教科書(紹介する参考図書もあれば記載)						
1 今日の助産:北川真理子 南江堂 2 マタニティ診断ガイドブック 第5版 2015年 3 助産学講座(6) 助産診断・技術学Ⅱ(1)妊娠期 2019年版 4 助産学講座(7) 助産診断・技術学Ⅱ(2)分娩期・産褥期 2019年版						
【参考図書】						
1 病が見える 産科:医療情報科学研究所 2 妊娠期の診断とケア:森恵美 日本看護協会出版会 3 基礎助産学4 母子の心理と社会学:村瀬聡美 医学書院						
受講における注意事項						
1 実習は原則全出席として評価の対象となる 2 長期間にわたる実習であり、分娩期の実習は、受け持ち産婦の状況により実習が夜間に及ぶこともあるため、自分の健康管理にも十分留意する						

科目名	助産学実習Ⅲ		担当教員	難波亜希子・橋本智恵美・則武由美子・渡部典子		
開講学期	通年	授業形態	実習	必修	単位	1
授業概要			授業内容			
<p>周産期におけるハイリスクな妊産褥婦と新生児のケアを理解し、高度な周産期医療を学び、チームにおける助産師の役割を知るために、妊娠合併症、産科手術における周手術期の助産ケア、分娩異常のケア、産褥期の異常を伴う褥婦へのケアおよび、新生児のハイリスクケア(NICU)を実習する。実習は、ハイリスクな新生児ケア(NICU)、妊産婦の受け持ちケースおよびMFICU(母体・胎児集中治療室)の実習を行う。</p>			<p>実習期間:5日間 [実習内容] 1) MFICU(母体・胎児集中治療室)実習(3日間) 2) NICU実習(2日間)</p>			
GIO(一般目標)						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 周産期におけるハイリスク妊産褥婦および新生児の健康問題を理解する</li> <li>2 周産期におけるハイリスク妊産褥婦に必要なケアを理解する</li> <li>3 周産期におけるハイリスク妊産褥婦および新生児の家族支援を理解する</li> <li>4 周産期におけるハイリスク妊産褥婦および新生児のケアを行うチーム連携を理解する</li> <li>5 母子の命への尊重とハイリスクな状況にある児の権利を擁護する事について知る</li> <li>6 高度医療を受ける児の親が直面する危機状況を理解し愛着形成への支援を知る</li> </ol>						
SBO(行動目標)						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ハイリスクな状況の対象について基礎的知識に基づいたアセスメントを行い説明できる</li> <li>2 対象者の急激な変化を予測して予防的観点から必要なケアを説明できる</li> <li>3 実践されたケアについて指導者の助言のもと評価を行い考察ができる</li> <li>4 家族の危機状況を理解し、母子・家族への愛着形成の支援を指導者の助言で実践できる</li> <li>5 MFICU(母体・胎児集中治療室)の機能と、そこで働く医療者の役割について説明できる</li> <li>6 新生児の障害なき発達と神経行動学的発達を促すためのチーム医療と家族支援について行われているケアを医学的根拠をもって説明できる</li> </ol>						
準備学習の内容						
シラバス提示内容の事前学習を行い実習に臨む						
成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポートを含む)へのフィードバックの方法						
<p>実習態度・内容・記録等を総合判断して評価する ハイリスク妊産褥婦受け持ち実習(50%)、ハイリスク新生児実習(50%) フィードバックを希望する学生については、個別に資料を基に説明を行う</p>						
教科書(紹介する参考図書もあれば記載)						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 新生児学入門 第4版 :仁志田 博司 医学書院</li> <li>2 MFICUマニュアル(第5版):新生児医療連携会 2015年</li> <li>3 親と子のきずなはどうつくられるか 2001年</li> </ol>						
【参考図書】						
1 新生児蘇生法テキスト						
受講における注意事項						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 実習は原則全出席として評価の対象となる</li> <li>2 ハイリスクな状況にある対象者への感染を防止するために、体調の悪い場合は教員へ必ず報告をして指示を得る</li> <li>3 この科目を受講する前に提示する図書を読み感想文を期日までに提出する</li> </ol>						

科目名	助産学実習Ⅳ		担当教員	難波亜希子・橋本智恵美・則武由美子・渡部典子		
開講学期	通年	授業形態	実習	必修	単位	1
授業概要			授業内容			
<p>地域における助産師の役割と、母子保健の向上に向けた連携を知ることが目的に、保健所での母子保健活動の実際と、助産院での助産管理と助産活動を理解する。また、地域における育児支援がどのように行われているかを知り、他職種と協働して実践するための、基礎的知識・支援技術・態度を身に付ける。実習は分娩設備を有する助産所実習と分娩設備を有しない助産所実習、及び保健所実習を行う。</p>			<p>実習期間：10日間 〔実習内容〕</p> <p>1) 保健所実習(5日間) * 岡山市保健センター * 奈義町</p> <p>2) 分娩設備を有する助産所実習(2泊3日) 分娩設備を有さない助産所実習(1日以上)</p>			
GIO(一般目標)						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 地域での母子保健活動の現状と動向を把握する</li> <li>2 地域母子保健事業の推進に必要な他職種との協力体制について理解する</li> <li>3 地域母子保健事業における助産師の役割について理解する</li> <li>4 地域で生活している家族の様々なニーズに対応したサービスを提供できる能力を養う</li> <li>5 地域における緊急時の対応、他の医療機関との連携、他職種との協働について理解する</li> </ol>						
SBO(行動目標)						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 地域保健活動と地域での助産活動(母子保健活動)の連携を説明できる</li> <li>2 地域での助産活動(母子保健活動)の展開方法について説明できる</li> <li>3 地域で生活する母子が受けている支援について説明でき、助産師の視点で必要性を述べることができる</li> <li>4 様々な文化を持つ母子のニーズについて学び、その援助の必要性について述べるができる</li> <li>5 災害時の母子の支援方法を述べるができる</li> </ol>						
準備学習の内容						
シラバス提示内容の事前学習を行い実習に臨む						
成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポートを含む)へのフィードバックの方法						
<p>実習態度、内容、記録物等を総合判断して評価する(100%) フィードバックを希望する学生については、個別に資料を基に説明を行う</p>						
教科書(紹介する参考図書もあれば記載)						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 助産師基礎教育テキスト 6産褥期のケア 新生児期・乳幼児期のケア 2018年</li> <li>2 今日の助産—マタニティサイクルの助産診断・実践過程 第3版</li> <li>3 助産学講座 9 地域母子保健・国際母子保健 2019年版</li> <li>4 助産学講座10 助産管理 第5版 2019年版</li> <li>5 新版 助産師業務要覧 第2版(Ⅱ実践編)2019年版</li> <li>6 助産業務ガイドライン第3版 2014年</li> </ol>						
受講における注意事項						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 実習は原則全出席として評価の対象となる</li> <li>2 地域で暮らす母子への配慮を考え、体調の悪い場合は教員へ必ず報告をして指示を得る</li> <li>3 保健所実習では、事前オリエンテーションを受ける(日程は後日指示)</li> </ol>						

科目名	助産学研究		担当教員	難波亜希子・高木二郎・橋本智恵美 他		
開講学期	通年	授業形態	講義・演習	必修	単位	1
授業概要			授業内容			
<p>助産活動を行う上で必要となる研究ができるための基礎的な知識と研究方法論を修得する。実習や講義等で抱いた疑問や問いについて、必要な文献を用いた分析能力を養い、多角的な視点で考察を行うための論理的思考を学習する。そのうえで必要な方法論を用いて人間の理解を深め、科学的な視点で助産学の探求を行う。</p>			<ol style="list-style-type: none"> <li>1 助産活動と助産学研究(難波)</li> <li>2 研究方法(難波)</li> <li>3 演習:文献検索(図書館に依頼)</li> <li>4 演習:文献検討①(担当教員)</li> <li>5 演習:文献検討②(担当教員)</li> <li>6 演習:文献検討③(担当教員)</li> <li>7 演習:助産学研究(抄録作成)(担当教員)</li> <li>8 演習:助産学研究(抄録作成)(担当教員)</li> <li>9 研究的倫理(石本)</li> <li>10 量的研究・実験研究(高木)</li> <li>11 演習:助産学研究(疫学・統計)(高木)</li> <li>12 演習:助産学研究(疫学・統計)(高木)</li> <li>13 演習:助産学研究(プレゼンテーション準備)①(担当教員)</li> <li>14 演習:助産学研究(プレゼンテーション準備)②(担当教員)</li> <li>15 演習:助産学研究(学内発表演習)(担当教員)</li> </ol>			
GIO(一般目標)						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 助産学の発展のための研究の意味を知る</li> <li>2 研究手法の基礎的理解を得る</li> <li>3 助産学研究の動向を知る</li> <li>4 研究的思考で現象を考える</li> <li>5 研究課題を論理的にまとめ報告する</li> </ol>						
SBO(行動目標)						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 助産学の発展と研究について理解できる</li> <li>2 関心のある研究テーマに必要な先行研究をレビューできる</li> <li>3 研究テーマに沿った研究方法論を修得できる</li> <li>4 研究論文を論理的にまとめることができる</li> <li>5 研究成果のプレゼンテーションができる</li> </ol>						
準備学習の内容・留意事項						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 授業前にシラバス提示内容の事前学習を行い受講する</li> <li>2 授業回数 of 順番を変更することがある。変更内容は掲示板で知らせる</li> </ol>						
成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポートを含む)へのフィードバックの方法						
授業への参加状況および研究プロセスと研究成果を総合的に評価する						
教科書 (紹介する参考図書もあれば記載)						
助産学講座1 基礎助産学[1] 助産学概論 2019年版						
【参考図書】						
黒田裕子の看護研究step by step, 第5版. 看護研究社, 2017.						
受講における注意事項						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 通年で行うため、演習科目については担当教員への事前連絡を行う</li> <li>2 研究成果は学内にて報告する</li> </ol>						

科目名	周産期代替補完療法		担当教員	國本政子・則武由美子・渡部典子 特別講師(山懸晶子)		
開講学期	通年	授業形態	講義・演習	必修	単位	1
授業概要			授業内容			
<p>周産期に起こるマイナートラブルを軽減し自然治癒力を高める代替医療について学ぶ。また、疼痛の緩和や、メンタルケア、アロマセラピーについても学ぶ。さらに、リラクゼーションの観点からボディートークを学ぶことで、助産師が行う妊婦に対する生活指導や、母子への支援を深める。また、これらを学習し、基礎力に加えて、実習・卒業後の実践で役立つ応用力を培う。</p> <p>5回・6回 7回・8回 9回・10回 11回・12回 2コマ続き</p> <p>13回・14回、15回目は年明け予定</p>			<p>1 アロマ(特別講師):アロマセラピーの基礎知識(4/19)</p> <p>2 アロマ(特別講師):精油の特徴と作用(4/26)</p> <p>3 アロマ(特別講師):アロマオイルトリートメント(タッチケア)(5/7)</p> <p>4 アロマ(特別講師):アロマオイルトリートメント(フット)(5/17)</p> <p>5 周産期代替補完療法とボディートーク・エンゼルハンズについて ・オリエンテーション・目標・ボディートーク考え方生命の捉え方 ・エンゼルハンズとは</p> <p>6 エンゼルハンズ実習① 実習②</p> <p>7 エンゼルハンズ実習 ・15分間の体ほぐし 実習③ 実習④ 一人ほぐし</p> <p>8 エンゼルハンズ実習⑤ 赤ちゃんを抱く手A 実習⑥ 二人ほぐし</p> <p>9 ボディートーク実習 ・ボディートーク生命のとらえ方(4つの視点) ・四つの息と感情・ 背骨の位置を体得する 実習⑦ ⑧ ⑨ ⑩</p> <p>10 エンゼルハンズ実習 ・15分間の体ほぐし心ほぐし ・3人輪くぐり ・赤ちゃんを抱く手 B 実習⑪ ⑫</p> <p>11 エンゼルハンズ実習 ・この手どんな手 ・マタニティーほぐし</p> <p>12 ・四つんばいほぐし ・おっぱいほぐし</p> <p>13 エンゼルハンズ演習(まとめ) ・到達度チェック他 15分の体ほぐし 赤ちゃんを抱く手他</p> <p>14 エンゼルハンズ(まとめ)</p> <p>15 周産期代替補完療法のまとめ(國本)</p>			
GIO(一般目標)						
<p>1 自分の五感を磨き生命を大切にする感性を養い、生きる力を高めてゆく</p> <p>2 自分の心と体を通して、心と体の結びつきを実感し、相手の心をも感じられる能力を育ててゆく</p>						
SBO(行動目標)						
<p>1 体ほぐしの実践を通し、心と体の結びつきを実感してゆく</p> <p>2 赤ちゃんを抱く手(五つ)を身につけるよう努める</p> <p>3 自分の心と体をケアする力を養いながら、助産師としての能力を高める</p>						
準備学習の内容・留意事項						
<p>・生理学的な体のしくみをふまえ、心とからだのあり方について考える</p> <p>・声(息)のあり方の重要性について考える</p> <p>・授業回数の順番を変更することがある。変更内容は掲示板で知らせる</p>						
成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポートを含む)へのフィードバックの方法						
<p>・1回目及び最後の授業後のレポート(気づき等)1600字以上</p> <p>・試験:実技(赤ちゃんを抱く手・背中たたき)、各時間の小テスト、理論</p>						
教科書(紹介する参考図書もあれば記載)						
<p>1 「ボディートークの世界」～体を見れば心がわかる～ 増田明 著 創元社</p> <p>2 ボディートークエンゼルハンズ指導教本 I 城石明子著 ボディートーク協会</p>						
【参考図書】						
<p>・「ボディートーク入門」 増田明 著 創元社</p> <p>・ボディートークの世界「基礎編」 増田明 城石明子共著 ボディートーク協会</p> <p>・DVD;「心ほぐし・体ほぐし」「自然体運動」 ボディートーク協会</p> <p>・アロマは別途指示</p>						
受講における注意事項						
タオル1枚、動きやすい服装(ジーンズ、ストッキング不可、ソックス要)						

科目名	ウイメンズヘルスケア論		担当教員	福岡悦子・橋本智恵美・則武由美子		
開講学期	通年	授業形態	講義	必修	単位	1
授業概要			授業内容			
女性の健康を支援するために、ライフステージで起こりやすい健康課題についての支援を学ぶ。具体的にはここでは、DV、性被害、ライフステージ各期で起こるハラスメントなどについて予防と解決に導く連携について学ぶ。また、育児を行う上で女性が自信を持つことのできる社会のしくみについて学び、助産師としての責任と役割について理解する。			1 産業保健の歴史の変遷(福岡) 2 働く女性と労働法①労働基準法等(福岡) 3 働く女性と労働法②男女雇用機会均等法等(福岡) 4 健康問題:骨粗鬆症への支援(福岡) 5 女性の健康支援 グループワーク①(福岡) 6 女性の健康支援 グループワーク②(福岡) 7 ライフステージにおける女性の健康(則武) 8 女性の性被害・DVの予防と対策(橋本)			
GIO(一般目標)						
1 ライフステージで起こりやすい健康問題がわかる 2 育児を行う女性への支援を理解する 3 働く女性を取り巻く職場環境の現状がわかる						
SBO(行動目標)						
1 働く女性と法律について概観する 2 働く女性のライフステージで起こりやすい健康問題への健康支援が理解できる 3 育児を行う女性への具体的支援について学ぶ						
準備学習の内容・留意事項						
授業前にシラバス提示内容の事前学習を行い受講する						
成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポートを含む)へのフィードバックの方法						
授業への参加状況および定期試験による総合評価 試験については、特に正答率の低かった問題などについての講評を掲示などにより行う						
教科書(紹介する参考図書もあれば記載)						
1 助産学講座3 基礎助産学(3) 母子の健康科学 2019年版 2 助産学講座5 助産診断・技術学 I 2019年版 3 困る前に必読のQ&A 働く女性の労働法 第一東京弁護士会人権擁護委員会両性の平等部会(編集) 2013年						
【参考図書】 適宜指示する						
受講における注意事項						



科目名	母子のスポーツ科学		担当教員	三谷紀久子・難波亜希子・則武由美子・渡部典子 他 特別講師(市川美紀)		
開講学期	通年	授業形態	講義・演習	必修	単位	1
授業概要			授業内容			
母子の健康と安楽な妊娠期・分娩期・産褥期を過ごすための、適切な運動を理解する。妊娠における生理的变化と生活の変化に焦点を当て、母子にとって安全な運動を支援できる方法を知る。また、運動による産後の身体機能の回復をおこなうためのセルフケアについて理解する。			1 妊産婦の運動生理学(難波) 2 妊産婦の運動と母子への影響(難波) 3 マタニティヨガの基礎理論(三谷) 4 マタニティビクス(特別講師) 5 マタニティビクス(特別講師) 6 マタニティヨガの導入(演習)(三谷) 7 母子へのリラクゼーション支援(三谷) 8 マタニティビクス(特別講師) 9 マタニティヨガの実際(演習)(三谷) 10 母子へのリラクゼーション支援(三谷) 11 マタニティビクス(特別講師) 12 母子へのスポーツとメディカルチェック(三谷) 13 母子のスポーツの教室運営(三谷) 14 母子のスポーツの教室運営(計画)( ) 15 母子のスポーツの教室運営(実施・評価)( )			
GIO(一般目標)						
1 妊産婦の運動生理学について理解する 2 妊娠期に起こるマイナートラブルの軽減について運動との関連を知る 3 妊娠期のリラクゼーション技術を理解する 4 妊産婦への運動の効果的な指導方法を知る 5 マタニティヨガの効果について知る						
SBO(行動目標)						
1 妊産婦のスポーツの目的が説明できる 2 妊産婦の運動の効果が説明できる 3 妊産婦のリラクゼーションが及ぼす効果について説明できる 4 運動による母子の生体反応を理解できる 5 安全な運動を提供できる計画を立案できる						
準備学習の内容・留意事項						
1 授業前にシラバス提示内容の事前学習を行い受講する 2 授業回数の順番を変更することがある。変更内容は掲示板で知らせる						
成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポートを含む)へのフィードバックの方法						
授業への参加状況および課題レポートによる総合判断 レポートの不合格者については、問題点を指摘した上で、レポートの再提出を求める						
教科書(紹介する参考図書もあれば記載)						
1 助産学講座6 助産診断・技術学Ⅱ[1]妊娠期 2019年版 2 助産師基礎教育テキスト 4 妊娠期の診断とケア 2019年						
【参考図書】						
授業で紹介します						
受講における注意事項						
1 授業3~15回は演習授業のため服装は担当者から指示を受けて準備を行う						